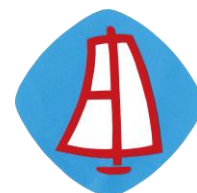


家園

字体作者：周 慧琚

第 19 号



特定非営利活動法人

中国帰国者・日中友好の会

〒110-0016 東京都台東区台東 3-35-7

ペガサスミシンビル 1 階

TEL : 03-3835-9357 FAX : 03-3835-9358



2017 年 6 月 27 日 中国人民大会堂にて

感謝の言葉

訪華団全体成员辛苦了！我代表本会向大家诚挚谢意，全程顺心顺意圆满成功是共同配合协作的结果。特别是二代各位表现非常突出，不管什么地方哪个角度都体现出年轻人的优良风范。这让老一辈看在眼里，喜在心上！今后，让我们继续为和平，为日中友好携手努力。

訪中に参加された皆様 お疲れ様でした。会を代表し心より感謝を申し上げます。お蔭様で全ての日程を円満に終えることができました。特に二世の皆さんにはさまざまな場面で力を発揮され、素晴らしい若者の規範を示し、実に微笑ましく思います。今後も平和と日中友好のため、共に手を携え努力して参りましょう。

NPO 法人「中国帰国者・日中友好の会」理事長 池田澄江

目 次

★ 第 9 回定期総会	2
★ 私には二つの家がある.....	3
★ ハルビン・北京での写真.....	4・5
★ 報恩・感謝の旅を通して感じたこと(二世のみなさん)	6・7
★ 訪中団に参加された二世のみなさんの写真	8
★ 中国語教室から	9・10
★ 訪中反省会	11
★ 本会活動記録・お知らせ・編集後記	12

NPO 法人「中国帰国者・日中友好の会」

第 9 回定期総会開催

文・河村忠志／翻訳・張狄

第 9 回定期総会于 6 月 17 日下午在本会 B1F 活动室召开。本次总会是都厅认定 NPO 法人后的第一次总会，由于“认定 NPO 法人”后，都厅对总会资料的要求比较严格，因此，会前做了充分的准备，使本次总会顺利进行。

大会认真听取了以下三个议案的报告。即第 1 号议案：2016 年度事业报告・活动决算、2017 年度事业计划・活动预算的审议；第 2 号议案：更改定款一部分的审议；第 3 号议案：役員の再任及辞任の审议。全会一致通过了以上三个议案。

本次总会第 1 号议案总结了 2016 年度所取得的成果和 2017 年度事业方针和计划。2016 年度本会取得的最主要成果是本会获得了都厅“认定 NPO 法人”的资格。这一资格的取得提高了本会在社会上的知名度和可信性；同时根据国家政策，不论是个人还是法人，向认定 NPO 法人寄付时，可以享受减税的优惠。这对本会资金募集、促进本会发展极为有利。这一成果的取得，是全体会员团结一致、共同努力的结果；同时也离不开各界人士的大力支援。

2017 年度是日中邦交正常化 45 周年。45 年前日中邦交正常化不仅使日中关系翻开了新的一页，更为残留孤儿寻亲和归国定居打开了方便之门。因此日中邦交正常化对于我们残留孤儿来说也是特别值得纪念的大事。

2017 年度本会在做好相谈事业，办好各类教室和饺子工房的同时，最主要的就是围绕日中邦交正常化 45 周年纪念活动，办好两件事。一是组团访问中国，经过上半年的精心组织，以本会会员为中心的 102 人的访问团，本着日中友好和感恩这两项宗旨，圆满地结束了对哈尔滨、方正和北京的为期 7 天的访问。二是积极参加中国驻日大使馆主办的“中国节”“出店和演出等活动。在宣传中国文化，扩大本会在外界的影响力的同时，为日中友好再做新贡献。

2017 年也是本会役員换届之年。上届 29 名役員除 1 人辞职外，其余 28 人均再任。总会之后的理事会，对理事长、副理事长进行了投票选举。理事长、副理事长都没有变化。

本会将在新一届理事会的领导下，把“认定 NPO 法人”作为新的起点，再接再厉，不骄不躁，继续努力，把本会办得越来越好。

第 9 回定期総会は 6 月 17 日午後、本会 B1F 活動室にて開催された。今回の総会は都庁から「認定 NPO 法人」と認定されてからの第 1 回目の総会だった。「認定 NPO 法人」になったことで、都庁側は総会資料に対する審査がとても厳格になり、総会をスムーズに行うために、事務局は万全の態勢で、念入りに準備を行った。

総会にて、以下の三つの議案が審議された。

第 1 号議案：2016 年度事業報告・活動決算、2017 年事業計画・活動予算；

第 2 号議案：定款の一部変更の件；

第 3 号議案：役員の再任及辞任の件。

全会一致で上記の議案が可決された。

総会の第 1 号議案は、2016 年度に得た成果と 2017 年度事業の方針と計画を総括した。2016 年度における最も重要な成果は、都庁から「認定 NPO 法人」と認定されたことだった。認定に伴い、本会の社会的な知名度及び信頼性が高まったと同時に、国の政策により、法人・個人に関わらず、認定 NPO 法人に寄付した場合は、税制上の優遇措置が受けられる為、本会にとっては運営資金集めが以前より容易くなり、本会の発展に有利になる。これらの成果が得られたのは会員の皆さんが一致団結、努力した結果であり、各界の支援者の方々のお陰でもある。

2017 年度は日中国交正常化 45 周年の節目でもある。45 年前の日中国交正常化は日中関係に新たなページを開いただけではなく、残留孤児の親族探しや永住帰国にも道を開いた。そのために、残留孤児にとっても記念すべき重要なことである。

2017 年度には本会は引き続き相談事業を強化すると同時に、各教室と餃子工房の運営にも力を注ぐ。併せて「日中国交正常化 45 周年記念活動」を重点に以下の事業もしっかりやり遂げる。まずは中国訪問について。半年をかけ入念に企画し、多方面にわたってご支援戴き、本会会員を主要メンバーとして、団員計 102 名の訪中団を結成した。「日中友好」と「感恩」を宗旨とし、哈爾濱、方正県と北京に 7 日間訪問した。訪問は大成功を収めた。次は積極的に中国駐日大使館主催の「中国フェスティバル」に出店、出演する。中国文化を多くの日本人に知ってもらおうよう、そして、本会の外界への影響力を強め、日中友好に新たに貢献できるよう、頑張っていきたい。

2017 年は本会の役員任期満了の年で、29 名いた役員の中に、1 人は辞職したが、他の 28 人は再任した。総会後の理事会で、理事長、副理事長の互選があったが、前期と変更がなかった。

これからも、本会は新しい理事会の下で、「認定 NPO 法人」の認定を新しいスタート地点とし、いままで以上にたゆまず取り組み、本会をよりよくするために努力する。

「私には二つの家がある」

文・孫妮／翻訳・春暁

6月22日、日中友好の会・全日本遺孤感恩訪問団102人在池田澄江理事長の率領下开始了访华感恩之旅。这其中有在70多年前的那场战争被遗弃在中国的43位日本遺孤，還有22位孤儿的二世。访问的第一站是哈尔滨，过去残留孤儿中有许多人是这片黑土地养育的。他们心系故乡，常常会回乡探亲访友，可这次归来。一出机场，一幅大大的红色条幅映入眼帘“哈尔滨日孤养父母欢迎您回家”，许多人热泪盈眶，闪动着相机，欢迎的笑脸，故乡我们回来了！

6月23日大家参观了《侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館》旧址。一张张照片、一件件物证，真实展現出当年那场灭绝人性的試驗。那些在实验室中使用的仪器设备，如何成了杀人的凶器，被灭绝人性的战争狂人用来成批的杀害手无寸铁的中国平民百姓。

在《中国养父母纪念馆》里，一幅幅珍贵的照片，一张张慈祥善良面孔，打动心弦，七十年前那是惊天地泣鬼神的一场悲壮场景呈现面前。无法想象，战争的硝烟还没有散尽，杀害父兄的侵略者还没有跑远，被烧杀抢掠得一贫如洗的中国人胸怀大爱收养起被遗弃的、嗷嗷待哺的侵略者的孩子，含辛茹苦，抚育了有3000多个孤儿，几十年的养育，伟大的中国老百姓创造了人类战争史上绝无仅有的奇迹。没有善良中国养父母哪有回歸日本の我们。今天姐妹们献上亲手折叠的五彩千纸鹤，感恩我们的养父母、感恩善良的中国人民。接下来在哈尔滨音乐学院和北京大学，我们把精心准备的节目敬献演出，感动了在场的每一位观众。许多中国青年学生流着泪看完我们的演出。正如朗誦者張兢节目最后所说“也许我们的歌声并不优美，舞蹈也不专业，但是我们对中国人民感恩的心是真诚的，我们守护和平，反对战争的信念是坚定的。”这是史上人数最多的日本残留孤儿访华团，受到中国有关方面的高度重视。

中日友好协会、中国对外友好协会副会长宋敬武宴请了代表团全体成员，宴会气氛友好热烈。河合律师、古川先生、栗山老师、北野老师在二胡伴奏下演唱了外国名曲。宴会“说句心里话，我有两个家……”的歌声中结束。

在访问的最后一天，中国人大副委员长王晨接见了代表团全体成员并进行了友好会谈。池田理事长、宇都宫、宫崎、过能等孤儿代表先后发言，表达了对中国和养父母感激之情。大家表示永远不忘中国人民的恩情要为日中世代友好竭尽努力，而且要让我们子孙后代都成为日中友好的桥梁。

2017年6月22日、池田澄江理事長率いる102名が日中友好の会・全日本残留孤児感恩訪問団として出発した。その中には、70有余年前、第二次世界大戦後中国に残された日本人孤児43名、及び孤児二世22名が含まれていた。最初の訪問地ハルビンは、過去多くの残留孤児達を育んだ土地である。彼らにとって常に心に掛けている地であり、度々親族や友人を訪問している地である。空港に降り立つと、「ハルビン残留日本人孤児養父母は、皆さんの帰省を心より歓迎いたします」という大きな大きな赤い横断幕が眼に入ってきた。カメラのフラッシュが煌めき、笑顔で出迎えを受けた私達は多くの人が目頭を熱くしていた。ただいま、戻って参りました。

6月23日多数の人が「731細菌部隊博物館」を参観。一葉、一葉の写真に、そして一件、一件の物証に、当時の非人間的な光景を目の当たりにすることとなった。本来ならば人々を救うために使われるべき器機が凶器として使用され、抵抗できない中国の一般の民を残酷に殺戮したことを。

一方、「中国養父母記念館」においては、貴重な写真の数々に写し出された、情深き善良なる面持ちに心深く琴線に触れるものがあつた。70年前、鬼神すらも涙する情景に対峙することとなったのである。想像することなどできようか、戦いの硝煙も消えぬ、父や兄を殺害した侵略者達は未だ近く、家財を略奪されたひどく貧しい状況のもと、中国の人々は、胸が張り裂けそうなほど腹を空かせて泣き叫ぶ侵略者の子供を連れ帰り、艱難辛苦を乗り越え、3,000人を優に超す孤児達を、何十年にも亘り養育してくれたことなど。偉大な中国の人々によって、戦争史上、いや、人類史上、類を見ない奇跡を起こしたのである。今日の私達があるのは、善良なる中国の養父母たちがいたからこそ、である。色鮮やかな千羽鶴を皆で折り、博物館に献上した。私たちの養父母の恩に、善良なる中国の人々の恩に、感謝を捧げる為に。哈爾濱音楽学院や北京大学において交流会を開催した。私たちは入念な準備、稽古を経て、歌や踊り、劇を養父母、皆々に披露し、来場いただいた方々に感動戴いた。数多の中国の青年・学生達が私達の演目に涙を流した。演出の最後には以下のように述べた。“私達の歌声は優美ではないかもしれない、踊りもプロのように踊れない、けれども私達は中国の人々に真心と感謝の心を持ち、平和を願い、戦争に反対する、その信念は揺らぐことは無い”。日本残留孤児訪中団としては今回史上最多となり、中国の各界からも注目を浴びた。

中日友好協会、中国人民对外友好協会副会長宋敬武氏には晩餐会を主催いただき、大変友好的な雰囲気のもと、訪中団全員をおもてなし戴いた。河合弘之弁護士、古川精一先生、栗山氏、北野氏らが二胡を伴奏に海外の名曲を披露した。“私には二つの家がある・・・”という歌で晩餐会は幕を閉じた。

訪問の最後には全国人民代表大会王晨副委員長と代表团全員が面談の機会を得た。池田理事長、宮崎、宇都宮、過能らが代表して挨拶し、中国政府、中国の養父母達に対して感謝の思いを述べた。中国の人々の恩情を忘れることなく、世代々日中友好に尽力し、両国の懸け橋となる様努める所存である。

❀❀ 報恩・感謝の旅 ハルビン編 ❀❀



2017 年 6 月 23 日



731 部隊資料館



2017 年 6 月 23 日 黒龍江省社会科学院



2017 年 6 月 23 日 哈尔滨音楽学院



2017 年 6 月 23 日 哈尔滨音楽学院



2017 年 6 月 24 日 黒龍江省方正県 日中友好園林



❀❀報恩・感謝の旅 北京編❀❀



2017年6月25日 北京大学



2017年6月26日 頤和園



2017年6月25日 北京大学（会歌斉唱）



2017年6月26日 中日友好協会主催歓迎会



2017年6月27日 人民大会堂

中国へ報恩の旅について

二世・小野隆輔

6 月 22 日総勢 100 人を超える大団体が、NPO 法人日中友好の会代表池田澄江様を中心にして企画された、日中国交正常化 45 周年中国へ報恩の旅。1945 年 8 月 15 日終戦により何十万人の日本軍人及びその家族、開拓団員と家族が中国に残され、混乱の中遭難した人は数えきれ無いほどでした。軍人と健康な男性がソビエト軍に捕まりシベリアへ送り込まれました。残されたご婦人や老人、子供たちが難民となって帰国のため逃亡生活をなしてしまいました。家族が離散し小さい子供が親とはぐれ、中国人に拾われたり、どうしても連れて帰れない子供たちは中国人に預けたり、統計によると中国東北三省だけでも 4 万人を超えました。当時黒竜江省方正県だけで 5 千人の孤児が残された。遭難された方が 1 万人を超えたそうです。1972 年日中国交正常化によりたくさんの孤児や残留婦人たちが肉親捜しの為来日し、私の父もその一人でした。多くの方が祖国日本に定住して来しました。言葉と文化の壁、食生活の壁、様々な差別や老後待遇問題などを乗り越えてきました。

中国のことわざに（吃水不忘挖井人）という言葉が有ります。水を飲むとき井戸を掘る人を忘れるべからず。ほとんどの残留孤児は育ててくれた中国の養父母ことは忘れずにいました。寛容と慈愛が満ち溢れた中国の養父母がいらっしゃったからこそ、わが命が有ると孤児たちの思いで、今回の報恩の旅を企画したのです。

102 人の中に私みたいな二世の方が 20 人ほど居ました。様々な思いで今回の旅に参加したのです。私の場合は 1987 年 19 歳の時に来日し六年後に父親が亡くなったのです。早く日本の社会に馴染む為に日本語の勉強、仕事、その後の結婚など、まともに父親の歴史を聞こうとしませんでした。今になって私も人の親になって、初めて父親の歴史やその時の感情等を聞こうと思いましたが既に遅いのです。その思いで私は今回の報恩の旅に参加させて貰い、たくさんの孤児たちの遭遇や経験を聞かせて頂きました。



河合先生と印教授の通訳をしている小野さん

ハルビンで日本軍科学兵器研究所 731 部隊跡地記念館を見学しました。当時日本軍の仕業などをガイダンスされとても複雑の思いでした。二度と戦争が起きないように、心からねがいました。一番印象に残ったのは、方正県日本人と養父母の墓でした。異国の地で亡くなられた方の心境を考えると、息が詰まる思いでした、父親の事や当時の様子を脳裏に彷彿したような気がしました。あの戦争がなければ両国民がこんなたくさんの被害に遭っただろうか？

戦争によって解決したことは今まで有ったでしょうか？ ほんの一握りの好戦者は私利私欲の為に戦争を起こし、たくさんの民衆を巻き添えにして自己満足するのです。今回の旅はたくさんの人と交流しました。一世の方が感謝の思いを中国の養父母に伝え、中国の政府に伝え、日中両国に平和の鳩のように飛び交い、そして私たち二世はこれからリレー式で、この責務を受け継ぎ、両国に伝えなければなりません。今回は報恩の旅にたくさんの戦争を知らない日本人や弁護士先生方も参加して頂きました。彼らは戦争反対者です。たくさんの残留孤児を助けて頂いた方々です。彼らがいらっしゃらなかったら半分以上の残留孤児の方がいまだに祖国へ帰ることできないと言っても過言ではありません。ここで彼たちに感謝の意を伝えさせていただきます。

そして一世の方がいらっしゃったからこそ私たち二世が居ることを忘れてはいけません。彼らを大切にし、幸せな晩年を送っていただきたいのです。以上報恩の旅の感想でした。

情缘系中国／二世感言

当初は高齢の皆さんの為に少しでもお手伝い出来たら…という軽い気持ちでの参加でした。でも実際に参加してみた今では、私たちと同じ境遇を起こされないように…二度と戦争が起きないよう、次世帯に伝えていきたいと思いました。一世と協力し合い日中友好の架け橋になれるよう努力していきたいと思っています。

私自身、今まで残留孤児の子どもであることを隠してきましたが、これからはありのままで生きたいと思います。また母の体験した事も残していきたいと思っています。

幼い頃から母はよく自分の体験を話してくれました。『ソ連軍空爆』で祖母のお腹に直撃を受け、祖父がその亡骸を背負って、一緒に自宅へ帰った様子などなど…。皆が自決する中「子ども2人だけ逃してくれた」と。そしてハルビンに辿り着いたら、懇意していた人に中国人に売られるという裏切り…などなど。余程辛い思いをしたでしょう。母はよく夢に魘されていました。

今年の5月、母を連れて長野県阿智村満蒙開拓記念館に行って来ました。母が千曲川開拓の資料を見て突然泣き出したのです。そして写真を指して言いました。「この人が私を中国人に売った人です」と。なんとその人は団長だったのです。戦争は本当に恐ろしい。人の人格までも変えてしまうのですから。戦争は二度としてはならないと痛感しました。二世・細川香



いつも年配の方のサポート
している細川さん



此次随行使我重新认识到，一代是怎么过来的，中国人民给了他们宝贵生命，回到日本经历千辛万苦赢得今天十分不易。如今他们即使年迈，仍然怀着自己的尊严时时刻刻维护着中日两国人民的世代友好。精神十分可贵。我们二代出生在中国接受过中国教育，我们的血缘有日本和中国各一半，为了报答中国人民对我们父母之恩，同时期待祖国的繁荣昌盛。我们自身更应该为中日两国的友好起到桥梁作用，中日两国人民都生活得幸福了才是我们的真正的幸福。



北京大学の梁雲祥教授と孤児問題について
語り合う

随行旅行を通して、あらためて一世の過酷な運命を再認識することができました。中国人に命を繋いでもらい日本帰国出来た事、帰国後さまざまな苦難を乗り越えられ今日の生活を勝ち取れた事。だが、一世が言うように自分たちには残っている時間そう長くありません。だから命ある限り中国に恩返ししていきたい。

中国で生まれ中国の教育を受けてきた私たち二世、日本と中国の血が流れています。親の恩人である中国、私たちの祖国である。私たちこそ両国友好の懸け橋にならなければなりません。中国の繁栄は私たちの願い、両国民の幸せは即ち私たちの幸せである。二世・巻口清美



訪中団に参加したのは、今回で三回目となった。毎回、孤児のみなさんからたくさん当時の辛い話を聞いていた。それなのに中国では誰一人辛い顔をみせない。日本ではなかなか見られない生き生きとした楽しそうな顔をしていた。みなさんは中国が大好きなのね。

今回、731部隊陳列館を見学した。そこでの顔は違っていた。過去の日本の過ちを話すガイドの説明を真剣に聞いていた。その顔は今も目に浮かぶ。どんなに辛い気持ちで聞いていたでしょう。「日本軍は……、日本鬼子は……」などなど、私でさえ心に針が刺さるような気持ちで聞いた。とても印象に残った。

戦争はしないでほしい。私たち二世、三世、これからも世代代、いつでも自由に両国行き来できることを願いたい。訪中後に開いた二世の報告会で、理事長の池田さんからの、日中友好のために二世三世に対する熱い期待にも微力ながら応えていきたい。二世・松本莉恵

報恩感謝の旅に参加された二世のみなさん



2017 年 6 月 27 日 人民大会堂前



2017 年 6 月 26 日 中日友好協会主催歓迎会



2017 年 6 月 27 日 北京市内



二世のみなさんは疲れ知らず、楽しいひと時



中国語教室のみなさんからの感想

★こんにちは！／你好 吉岡孝行★

宿泊した護国寺賓館入りロビーには、インコが飼われていた。今春より私はNPO中国語教室にお世話になるが「ニーハオ！」の呼び声に、インコは「ニーハオ！」と応じてくれた。私の中国語は、インコに通じたようで嬉しかった。だが、発音は、私よりインコが勝っていたと思う。



♥縁があって／有幸 石原志保♥

中国語学習クラスで勉強しているにもかかわらず、事前の説明会は中国語ですすめられ、内容が分からず不安でした。しかし実際参加すると100人の大所帯ながら協力しあい仲よく大人の修学旅行のような楽しさでした。中国帰国者の方々の歴史や現在の状況も理解でき、本当に有意義でした。

次回はもっと内容を理解できるよう、中国語学習頑張ります！今回企画いただいた事務局の皆様ありがとうございました。



★哈爾濱の初夏／哈尔滨初夏 渋野秀司★

一鴻北飛残雨天	いちこうきたくだあめよてん 一鴻北に下る雨余の天
蝶舞蜂恋花蕊間	ちょうまいはちくるうかしんあいだ 蝶は舞蜂は狂う花蕊の間
新柳依依臨緑水	しんりゅういりりよくすいのぞ 新柳依依として緑水に臨み
暖風拂面松花边	だんふうおもてはらしょうかほとり 暖風面を拂う松花の辺

【現代語訳】

雨が残る空一羽のガンが北に飛んでいく、
足下では蝶や蜂が花に群がり舞っている。
芽吹いた柳がなよやかに川面を見おろし、
初夏の風が顔をなでていく松花江のほとり。



♥収穫／收获 渡辺由美子♥

素晴らしい訪問団に加えていただき、大変感謝しています。普通では行けないような場所を訪れ、学ぶことの多い一週間でした。

これ程多くの帰国者の方々と接するのは初めてでした。一世二世共に想像以上にご苦労なさったはずなのに、皆さん穏やかで優しく、感動します。

二世の成川良子さんとホテルが同室で、色々お話できたのも良かったです。日中友好の大切さを痛感し、微信で中国の友達に日本の良さを発信しているという真摯な姿勢に心打たれました。

以前私は3年間北京で過ごしました。久々の北京で、「家に帰って来た」感じがしました。中国は私にとっても故郷の一つだと実感し、日中友好に関わって行きたいと思いました。

一週間の滞在中、頭の中で徐々に中国語が蘇りましたが、簡単な単語が出て来ないこともあり、一層勉強しなくてはと思いました。巻口先生、よろしくお願ひします！

此次能够随盛大访华团访问中国我感到十分荣幸。在此表示感谢。这次我们所访问的地方都是平时难以访问地方，整个一周学习收获极大。

能与这么多的归国者在一起我还是头一次。一代和二代他们经历了我所想象不到的艰辛生命历程，可眼前的他们那温柔自如丰富的气质深深打动了我。

我和二代成川良子同一个房间，我很高兴和她唠叨了很多事情。使我深感中日友好的重要性。平时她用微信向中国的朋友传播日本正能量信息，我不由得为她这种诚挚的态度所感动。

我曾在北京生活过三年。这次来到久别的北京仿佛觉得又‘回到了自己的家’。我感觉中国就好像我的一个温暖家乡。所以今后我将继续参与各种各样的中日友好活动。

在中国一周的旅行，我的中文逐渐地苏醒起来，尽管旅途期间几次想要说的话，就连简单的汉语单词都想不起来，所以我回到日本后学习汉语的欲望更加强烈了。

中国語教室訪中者所感／汉语教室访华成员感受

講師 卷口清美

中国語教室では初級 3 名、中級 5 名が学び、多くは前任者宮崎慶文先生が担当した時からの学習者です。宇都宮孝良副理事長を始め事務局のバックアップの下、月三回土曜日に開講しています。

この度の訪問団には、私を含め 6 名が参加させていただきました。中には、中国は初めてという人もいました。旅の初日、それぞれが期待と不安を抱いていたようですが、一週間の日程を通して、他の日本人参加者の方々と同様、誰一人目立った行動もなく帰国者一行に溶け込んでいました。

各地での様々な活動や感動的な公演では、中国語教室の渋野秀司さんや吉岡孝行さんが、帰国者一行の生き生きとした姿を熱心にカメラに収めてくれました。地方から参加した帰国者にも目を配り、首都圏の帰国者に紹介するなど、架け橋になってくれました。

方正県の中日友好園林日本人墓地の前では、NPO の楽器教室でも学ぶ平沢千恵子さんが、持参したコシヒカリをお墓の周りにまいてくれました。「みんな、どれだけお腹を空かせ、故郷に帰りたいかっただけでしょう」と、用意していたお供え酒を二世の小野隆輔さんに渡し、まいてもらいました。更に、異国に眠る方々のためにひょうたん笛でしなやかに「故郷」を奏でてくれました。

旅を終えて間もなく、NPO 事務局に吉岡さんから旅行の私製写真集が届きました。この写真集は、現地でお世話になった北京大学の印紅標教授などにも送られました。見た方々から様々な感想が寄せられているようで、吉岡さんにとってうれしい驚きのようです。

旅を通じ、私たちは交流の大切さを実感しました。このような有意義な活動に参加できたこと、訪問団の一人一人が笑顔で帰国できたことに感謝します。今後も様々な交流活動に参加し、日中友好に貢献できるよう、教室の皆さんと楽しく学んでまいります。

我们汉语教室初级班三位，中级班五位学生都是从宫崎庆文老师担任时期进来学习的学员。教室平时在宇都宫孝良副理事长以及事务密切配合下，每月三节课，时间为周六、初级 11:00-12:30 中级 13:00-14:30。

这次访问活动，汉语教室一共六人参加，其中有的是第一次去中国。出发的当天每个人满怀着许多的期待，而面容似乎略带不安地踏上了旅途。在一个星期的旅行过程中每位成员与其他随行的日本人一样大家前后照应渐渐轻松地融入于归国者的团体里。

在各地的活动以及感人的公演中，汉语教室的涩野秀司和吉冈孝行两位热心地拍下了归国者们精神焕发的感动镜头。学员们主动与来自日本各地的归国者进行交流，听取他们的心声，并将他们介绍给首都地区的归国者们，为促进整个团体间的交流发挥了作用。

在方正县中日友好园林日本人墓地前，我们 NPO 乐器教室成员的平泽千惠子，特意从日本带来高志水稻大米撒在坟墓的周围，虔诚低语：‘在那逃亡的岁月里，你们有多渴，多饿，多么想回到自己的家乡...’。她把带来的供酒交给二代的小野隆辅洒在墓前。接着她从背包里掏出葫芦丝奏起了乐曲‘故乡’，在场的人们听着那悠扬的旋律，默默地向沉睡在异国大地的人们寄与心中的怀念。

旅行结束不久，NPO 事务所里收到了大批写真集。学员吉冈，他为纪念访华特制了写真小册子请大家分享。同时他还寄给了北京大学印红标教授以及为此次行程提供帮助的关联单位。出乎自己预料的是接到各界人士对他本人以及写真集的宝贵意见，使他十分欣慰。

此次旅行使我们深深地感受到交流的重要性。我们为能够参加有意义的活动感到高兴，感谢 NPO 使我们每位成员满怀喜悦顺利完成全部行程。今后我们将继续努力参与 NPO 的各项活动，进一步加深中日友好交流，并继续学好汉语。



中国訪問反省会／感恩訪華總結會

文・宇都宮孝良／翻譯・張狄

6月22日到6月28日，由NP0发起组织的“日中友好之会・全日本遺孤代表感恩訪問團”共102人，共同努力，积极参与这次具有重要意义的活动。

7月15日，召开了NP0理事和部分教室老师的总结会。出席者热烈发言、讨论。

池田理事長：我们以日中邦交正常化45周年为契机，以全国各地残留孤儿为代表，和年轻的二、三世以及日本各界友好人士共同组成大型访华团，团员各位各司其职、互相配合、克服各种困难，访问了哈尔滨、方正和北京。得到中国政府、外事办的热情接见和鼓舞。

崔树人老师：为准备这次活动，我们创作排练了朗诵剧“孤儿的泪”，真实地再现了孤儿的悲惨经历片段。在哈尔滨和北京演出得到了肯定、赞扬。值得提出的是栗山老师、北野老师、张兢、历杰、刘主恩、王怀林不论在排演中，还是在正式演出中都是一丝不苟、紧密配合。给大家做出了榜样。

栗山老师：我是第一次参加这样的有重要意义的活动，我们的演员以亲身感受，用真挚的情感生动地完成了演出，给我留下很深的印象。

中村惠子老师：这次感恩活动是以前感恩中国人民的继续，我认为是很成功的。参演者大部分是第一次登台表演，主力都是70岁以上老人；年轻点的都是又要上班，又要排练，反复走台，许多成员都是带病参加。因为大家心里都愿意为日中友好努力，感恩中国的养父母。

总结会上，充满喜悦和兴奋，但也找出了不足。

访问活动中，池田、宫崎、河村、過能等各位担当发挥了自己的能力，相互配合；年轻的二代主动热情、鼎力帮助，鼓舞了整个团体人员。

6月22日から6月28日まで，本会が主催して「日中友好の会・全日本残留孤児代表感恩訪問団」を結成し、計102名の団員を集め、中国訪問をした。

帰国後、7月15日に、本会にて理事や一部の教室の先生が参加する反省会が開かれ、出席者は積極的に発言、議論した。

以下はその主な発言を記す。

池田理事長：「日中国交正常化45周年」を機に，全国各地の孤児代表、二世、日本各界の友好人士と共同で訪中団を結成し、団員の皆さんは役割分担を明確にし、協力し合い、思わぬ困難をも克服して、ハルビン、方正と北京三か所を訪問した。中国政府、各地の外事弁公室と会談ができ、励ましをいただいた。

崔樹人先生：今回の行事のために、我々は朗読劇「孤児の涙」を製作した。劇は偽りなく孤児の悲惨な体験を再現した。ハルビンと北京での公演は称賛され大成功だった。出演者はみんな全身全霊をかけて役をこなした、特に栗山さん、北野さん、張兢さん、歴傑さん、劉主恩さん、王懷林さんの各位は、稽古にしても、公演にしても、疎かにせず、みんなの手本になってくださった。

栗山先生：私にとって、このような有意義な活動に参加するのは初めてである。出演者の皆さんが自分の体験に基づいて、溢れ出る感情を完璧に演出してくれたのが、とても印象深い。

中村恵子先生：今回の謝恩行事は以前の中国人民に感謝する行事の続きで、とても成功だった、と思う。出演者の大部分は舞台上上がるのは初めてで、しかも主演はみんな古希を過ぎている。比較的若い人は仕事しながら、稽古をしていた。多くの人は病気を顧みず、日中友好のため、養父母に恩返しできるよう努力した。

反省会ではみんなは中国訪問の興奮や喜びをもう一度味わった、同時に至らない点にも反省した。

訪中期間、池田、宮崎、河村、過能等各理事は与えられた役割をきちんと果たした、その上、協力し合って訪問の成功に大いに貢献した；若い二世も、積極的に年長者を介助して、訪問団のみんなの士気を鼓舞した。

認定「NPO 法人 中国帰国者・日中友好の会」活動記録 (2017 年 5 月～ 7 月)

6 月 17 日	NPO 地下活動室にて、第 9 回総会を開催。安原弁護士・菅波アドバイザーに出席頂く。
6 月 22 日～28 日	ハルビン・北京へ 弊会が主催した日中友好報恩訪問団として合計 102 名が中国を訪問。 黒龍江省社会科学院／ハルビン音楽学院／北京大学等で交流会開催。 人民大会堂では全人代常務委員会副委員長王晨氏に面会。
7 月 5 日	NHK ラジオ深夜便収録。池田理事長がディレクターバーランドさんと出演。 放送 7 月 18 日・19 日 朝 4 時～ 明日へのことば「三つの名前で生きて①、②」各日 40 分 弊会ホームページより視聴可 http://jc-yuko.com/index.html
7 月 11 日	塩崎恭久厚労大臣と全国の孤児代表らと面談。総勢 29 名参加。 厚生労働省の実務担当者にも支援策の充実を依頼。 弁護団から鈴木経夫・小野寺利孝・安原幸彦・米倉洋子弁護士が参加。
7 月 15 日	二世三世による訪中報告会

※お知らせ※

国連合唱団

★創立70周年記念日本公演★

本会合唱団出演

日時:9月7日(木)18:30開演

場所:早稲田大学大隈講堂

★第1回介護講座開催★

日時:10月5日(木)10:00～

場所:本会活動室

★かつば橋祭り出店★

日時:10月8日(日)～9日(月・祝日)

場所:浅草 金竜公園

★チャイナフェスティバル2017★

餃子工房出店／音楽教室出演

日時:10月21日(土)～22日(日)

場所:代々木公園

★東アジア文化フェスタ出演★

演目:中国媽媽

日時:11月4日(土)

場所:北とぴあ

征稿启事

为迎接新年,会刊第20号,现在开始征集文稿:诗歌、散文、随笔、通讯等,字数600以内短小均可,欢迎您的文稿象一片红叶,装裱我们的《家園》

《家園》編集委員(第19号)

白 山 明 徳	河 村 忠 志
二 田 口 国 博	張 狄
春 暁	惟 遠
中 嶋 い つ 子	入 澤 美 和 子
レイアウト	松本莉恵

編 集 後 記

訪華感懷

百人訪問正氣揚 五彩紙鶴情誼長
感恩大愛訴衷腸 濱城放声大合唱
欣慰二世齊相助 北京舞劇催泪下
日中友好架橋梁 大会堂内譜新章

詩／入澤美和子